

素顔拝見



摂食嚥下
リハビリテーション学分野

落合 勇人

2020年4月より、摂食嚥下リハビリテーション学分野で言語聴覚士として勤務をさせて頂いております落合勇人と申します。この度「素顔拝見」の執筆の機会を頂きましたので、大変恐縮ながら自己紹介をさせていただきます。

私は埼玉県で生まれ育ち、大学卒業後に千葉県のリハビリテーション病院での勤務を経て、母校で教員として5年間勤務を致しました。その後に御縁を頂き、摂食嚥下リハビリテーション学分野で勤務をさせて頂いております。趣味はランニングで20代の頃は、富士山登山競争や、100マイル(160km)の山岳レースに毎年出場し、痛みと苦しみと少しの達成感を愛する耐久レースジャンキーでした。

さて、言語聴覚士(ST)はマイナーな職(更に歯科にいるSTは大変少ない。)ですので、少しご紹介をさせていただきます。STは、小児～成人までのコミュニケーション、食べる機能の障害の評価・リハビリテーションを生業とし、主に脳卒中等に伴う失語症や高次脳機能障害、構音・音声障害、吃音といった発声発語障害、自閉症などの発達障害、聴覚障害、種々の要因による摂食嚥下障害の支援に携わります。

私も様々な領域を経験して参りましたが、軸は摂食嚥下障害の方々への支援です。

新人の頃、神経難病の方を担当させて頂いた際に、発語も経口摂取も困難になっていく中で「水を一杯飲みたい」と時間をかけてつづって下さった文面を頂いたことがありました。

有効なことが何も出来ずに、STの看板を下げ

ていることを情けなく感じた時でした。

そんな時に人生で初めて参加した学会が、新潟で開催された摂食嚥下リハビリテーション学会でした。当時は金欠で宿泊は漫画喫茶に夕食はすき家でしたが、見聞きする講演と熱量に興奮し、この分野にこだわり、最後のひとさじまで支える専門職になろうと強く感じたことを印象深く覚えています。それから10年以上経過し、新潟大学で臨床・研究をさせて頂いていることに不思議な御縁と、これ以上はない充実した時間を過ごさせて頂いております。デスクには当時の患者さんからの文面を一番目につくところに貼って、今もお尻を叩いてもらっています。

摂食嚥下領域の臨床・研究の奥深さと新潟に魅了されて早3年目になりました。ご指導頂いている医局の諸先生方には感謝の日々です。力不足ですが、新潟大学に少しでも貢献できるように精進して参ります。今後とも何卒よろしくお願い致します。



歯周診断・再建学分野

中島 麻由佳

2022年4月1日付でスイングバイ・プログラム助教を拝命致しました、歯周診断・再建学分野の中島麻由佳と申します。素顔拝見執筆の機会を頂きましたので、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

私は新潟市の出身で、新潟大学病院のすぐ近くに実家があります。幼少期から身近にあって馴染み深く、また自身の歯科検診を大学の小児歯科の先生にして頂いていた縁もあり、新潟大学歯学部への進学を決めました。地元の大学へ進学したの

で周りの方からは親孝行と言われるのですが、実際は全くそうではありませんでした。親の目から逃れて自由に学生生活を送りたい！との思いから、狭い実家マンションを出て、更に大学に近いところに部屋を借りて一人暮らしをさせてもらっていました。なんてワガママな娘だったのだろうと、今振り返って思いますが、希望を叶えてくれた両親には感謝しかありません。学部学生時代は、よく遊び、そこそこ学ぶ学生でしたが、歯周診断・再建学分野への大学院進学を考えるきっかけになった瞬間は今でも覚えています。当時の歯周科教員の先生がとてもお話が上手で、その先生が語った研究のお話に取り込まれ、その時ばかりは夢中で講義を聞きました。それは私と研究との出会いの瞬間でもありました。そこから10年以上経った今では、研究の魅力にどっぷりとハマり、海外研究留学を経てこれからもずっと続けていきたい仕事と思っていますし、若い学生さん達にもその魅力を伝えていけたらと思っています。

海外留学についてですが、2019年4月から2022年3月までの3年間、米国ボストンにあるハーバード大学でドラッグデリバリーシステム(DDS)に関する研究を行なって参りました。そのラボでは数々のユニークなドラッグキャリアの開発を行っており、自身の専門である歯周病治療への応用研究が私のメインテーマでした。それまでにDDS研究を行なったことがなかったため、初めは苦労することも多くありましたが、今までに見たことのない世界へ足を踏み入れ、3年間exciting!な瞬間の連続でした。当時3歳になったばかりの一人娘と主人の家族3人で渡米致しましたが、アメリカならではのゆったりとした時間の中で、家族の時間を沢山作れたことも良い思い出となっています。留学中に経験したことや学んだこと、また出逢った人々は私にとってかけがえのない宝物となっています。

この4月に再び新潟へ戻ってきましたが、新たな気持ちで良いスタートを切れたように思います。これからはDDS研究を軸に、またスイングバイ・プログラムの趣旨に沿って、広く他分野の先生方とも関わっていろいろなお仕事ができたと思っています。

最後になりましたが、今後も多部田康一教授のご指導のもと歯周診断・再建学分野、歯学部的发展に貢献できるよう精一杯努めてまいります。皆様どうぞご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。



歯科総合診療科

佐藤 拓実

2021年7月1日付けで助教を拝命いたしました、歯科総合診療科 佐藤拓実と申します。この度は「素顔拝見」の執筆の機会を頂戴しましたので、この場をお借りして自己紹介させていただきます。

生まれは新潟県北蒲原郡加治川村という現在の
新発田市の最北部に位置します田園風景広がるのどかな土地です。元々野山を駆け回って遊ぶのが好きなごく一般的な子供で、おにごっこや虫取りをしたり、鉄棒やブランコなどの遊具で危険な遊びもよくやって育ちました。また図鑑を眺めるのが好きな少年でもありました。中でも恐竜図鑑がお気に入り、両親に連れて行ってもらった長野の野尻湖で、三葉虫の化石を買ってもらったのをよく覚えています。中学までは村の学校に通い、高校は県立新発田高校に進学しました。小中高と学級委員を任されることが多く、友達と先生の板挟みにあうのがひどく居心地悪く感じることも多くありましたが、その経験が現在の自身の性格に色濃く影響を与えているのかなと最近では考えるようになりました。

大学は東京医科歯科大学に進学し、全国津々浦々から集まった多様な方々と面白可笑しい日々を過ごすことができました。大学では男子バレー部に所属し、初心者ながらセッターを志望するというなんとも無謀な挑戦を行いました。その所為とは思いたくないですが、部活中に足の骨を折ったり、アキレス腱を切ったり、ぎっくり腰になっ

たりと怪我には散々泣かされました。今でも正座はつらいです。怪我を乗り越えたからというわけではないですが痛みや苦しみには強い自信があります。単に鈍感なだけかもしれません。

大学を卒業すると故郷の新潟に戻り、新潟大学医歯学総合病院歯科医師臨床研修プログラムAで臨床研修を行い、1年レジデントで歯科総合診療部に残りました。この2年間で様々なことを経験させていただき、一転東京の開業医に就職するわけですが、なんやかんやあり（いろいろと辛い経験もしました）歯学教育研究開発学分野にて大学院を修了させていただき、現在に至ります。

以前の歯学部ニュースでも書きましたが、大学生のころから大学院には進学しないと思っておりましたがなんやかんやで院も卒業し、教職に就いているというのもなんと自分らしいと思う次第です。かれこれ10年ほど新潟大学にお世話になっているわけですが、歯科総合診療科という場所柄先生方や学生にはあまり印象に残っていないと思われまふ。今後は臨床実習・臨床研修などでお世話になるかと思ひます、拙いながらも新潟大学に貢献できるように精進いたしますので、先生方、学生のみなさんこれからどうぞよろしくお願ひします。



顎顔面口腔外科 病院専任助教

隅 田 賢 正

顎顔面口腔外科学分野の隅田賢正と申します。スミダではなくスミタ、賢正と書いてヨシマサと読みます。“スミタヨシマサ”です。よろしくお願ひします。自分のことについて書くという、なかなか珍しい機会をいただきましたので、少々書いてみようと思ひます。

生まれは佐渡市、育ちは新潟市です。一年の浪人を経て東京歯科大学に入学し、部活（バスケット）とバイトばかりの学生生活を経て、2013年に臨床研修歯科医として新潟大学に入職しました。2014年に顎顔面口腔外科に大学院生として入局し、その後、基礎研究を口腔病理学分野に参画させていただき学位を取得。研究と並行して病理診断業務

も行わせていただきました。大学院卒業後は長岡赤十字病院、新潟中央病院と2年間の関連病院勤務を経て、2020年より顎顔面口腔外科医員として復学し、2021年より病院専任助教を拜命しております。

唐突ですが、佐渡市というと大抵の人は「新潟の上にある島ね」くらいの印象しかないと思ひますが、実は全周200kmもある大きな島で、毎年佐渡を周回する自転車イベントやトライアスロンが行われたり、“アースセレブレーション”“さどの島銀河芸術祭”などといったフェスが行われたりと島全体でイベントを盛り上げる気概のある土地です（“さどの島銀河芸術祭”はDOMMUNEというネットラジオが協賛で入っており、ご自宅でも楽しめますので是非チェックしてみてください。いいフェスですよ）。しかしながら、なんといつても今年佐渡金山が世界遺産に推薦が決まったことが佐渡の一大ニュースと言えます。まだ正式に世界遺産と決まったわけではありませんので、正式に世界遺産になり混んでしまう前に訪れておくことをお勧めします。とにかくいいところですよ佐渡は。魚釣りにもおすすめですよ。

現在の仕事としては、大学院時代に口腔癌の研究と病理診断業務にあたっていたこともあり、一般的な口腔外科診療に加え、口腔癌治療を中心として日々の業務にあっています。癌治療の基本は手術で切除治療を得ることであり、その補助として放射線治療、抗癌剤治療という印象をお持ちの方もいると思ひます。個人的にも、口腔外科医としては手術手技の上達や経験手術の増加に目を向けがちではありますが、近年では分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬、粒子線治療の保険収載や、遺伝子パネル検査を用いた癌個別化医療が現実的となってきていることから、手術だけに囚われず治療の選択肢を幅広く学ぶことが必要であると痛感しております。口腔癌という、患者様の人生にとって大きなターニングポイントとなる病気に携わっているんだということを肝に銘じ、今後も患者様のためとなれるよう日々の臨床に邁進する次第です。以上、乱文・駄文となりましたが、私の素顔紹介とさせていただきます。今後ともよろしくお願ひします。



歯科放射線科

高村 真貴

令和3年6月1日付で歯科放射線科の助教を拝命致しました高村真貴と申します。この度、歯学部ニュース「素顔拝見」の執筆機会を頂きましたので、この場を借りて自己紹介をさせていただきます。

出身は長野県の松本市です。松本市と聞いてどのあたりかイメージが湧かない方も多かもしれませんが、概ね中央部とイメージしてもらえればいいのかと思います。内陸出身なため、新潟に来た最初の年の冬には風の強さに驚かされました。新潟に来てから10年以上経ちますが、いまだに風の強い冬の朝は億劫に感じてしまいます。余談ですが、本学歯学部は長野県出身の先生方も多く、例年開催される長野県人会は大いに盛り上がります。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の流行拡大により大人数が集まらない状況が続いており、コロナ禍の終息を願うばかりです。

私個人の話に戻しますと、46期生として本学歯学部に入学しました。学生時代の思い出と申しますと、水泳部に所属し、夏も冬も関係なく西海岸公園の市営プールに通っていたことでしょうか。大きな成果をあげることはできませんでしたが、オールデンタルや東医体の応援のために南は鹿児島、北は札幌まで旅行したことを含め、貴重な経験ができたとなつかしく思います。現在ではすっかり泳ぐ機会もなくなってしまい、当時の自分の情熱にあきれるばかりです。代わりに最近では走ることに目覚め、暇をみつけては信濃川の河川敷をマイペースに走っています。同じレーンをひたすら往復する水泳とは異なり、景色が変わっていくところが新鮮です。特に夜中のフェリー乗り場の周辺はお気に入りの景色です。

歯学部卒業後は歯科総合診療部での臨床研修、顎顔面放射線学分野の大学院を経て現職へと至っております。大学院時代から口腔癌の画像診断をテーマに研究を行っております。学位研究では舌癌の画像診断について、CT・MRI・超音波と病理組織像との比較を行いました。口腔癌の画像診断では、実際の癌の大きさよりも画像が過大、あるいは過小評価していることが珍しくありません。癌のどのような特徴が画像に影響を与えるのか、複数の画像検査結果をどのように評価していくか等、これからも検討していきたいと思えます。

助教を拝命してからは大学院生時代とは異なり、研究に加え臨床・教育の機会も頂くことが多くなりました。放射線科の仕事に関しては、診断レポートの見落としによる医療事故やテレビドラマ等により一般の方々にもその仕事内容が認知されてきているように思います。歯科放射線科の仕事も例外ではなく、歯科領域だけでなく隣接する領域の知識も求められるようになってきています。まだまだ学ぶことも多く、勉強不足を痛感する日々ではありますが、やりがいを感じさせていただいております。

今後も研究・臨床・教育を通して本学歯学部の発展に貢献できるよう精進してまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



予防歯科

皆川 久美子

こんにちは。2021年6月より、予防歯科の助教を拝命いたしました皆川久美子と申します。この度、「素顔拝見」を執筆する機会をいただきましたので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

出身は茨城県の筑西市（旧下館市）ですが、母が新潟市出身で里帰り出産をしたため、こちらの

新潟大学病院で生まれました。自分が誕生した場所で仕事をしているという事実に、感慨深い気持ちになることもあります。

実家はバスが1日1本、しかも平日のみしか運行していないほどの田舎でしたので、新潟市での生活は快適そのものでした。5年ほど前から主人の実家のある加茂市に住むことになり、通勤・利便性・雪のありとあらゆる面でQOLの著しい低下を招いたものの、主人と主人の家族に助けをもらいながら2人の息子達を育てております。息子達は、主人そっくりの長男が小学1年生（6歳）、私そっくりの次男が年少（3歳）で、性格から食の好み、服の好みまで全く違うため、「男子2人でコスパ最高」という期待は大幅に裏切られました。もともと子供が好きな性分ではなかったので、長男を産んだ次の日には「仕事行きたい」と考えるほどに育児が大の苦手でしたが、周りの方々に支えていただきながら今日まで育ててくることが出来ました。2度の育休と産休、時短勤務にも拘わらず、予防歯科に籍を残していただき、今回助教に任命いただきましたことに、宮崎前教授・小川教授・葭原教授・そして医局員の皆様にごこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、研究については『口腔と全身との関係』という大きなテーマの元、様々な研究に関わらせていただきました。入局当初、上級医の先生方が「歯周病を治せばだいたいなんでも治る」と（冗談で）仰っていたのが大変印象的で、あの言葉があったからこそ私はこんなに長い間予防歯科と関わっているのかもしれませんが。余談ですが、昨年度はコロナワクチンを接種してから1年間、気管支炎と肺炎に罹患し、階段も登れず、深呼吸も出来ず、生きているのが精一杯という生活を送っておりました。当時はコロナと忙しさと体調不良を理由に歯のメンテナンスも怠っておりましたが、最近は歯のクリーニングにも行けましたし、体調も回復傾向にあります。「歯周病を治せばだいたいなんでも治る」は、あながち嘘ではないかもしれません。

最後になりましたが、新潟大学そして予防歯科学分野に少しでも貢献できるよう、微力ながら頑

張っていきたい所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



歯周病科

佐藤 圭 祐

2021年9月1日付で医歯学総合病院歯周病科の助教を拝命いたしました、佐藤圭祐と申します。

出身は新潟市西蒲区（旧西蒲原郡西川町）で本学43期卒です。最近でこそ「そら野テラス」という観光名所がありますが、もともとは田んぼ以外になにもないのどかな田舎町になります。たいへん方言がキツイ地域でもあり、現在も新潟弁を使いこなせることが私の自慢になります。（ちなみに西川地域には「西川弁大全集」という方言の辞書も存在します。機会がありましたら是非手に取っていただけると面白いと思います。）翻訳アプリを使用することでたいいの言語はコミュニケーションをとることができる昨今ではありますが、新潟弁に関しては百戦錬磨のアプリでも認識してくれません。外来で「はがやめる」患者さんや「ひゃっこいみずがしょむ」患者さんが来院された場合でも、「なんぎでしたねえ」と言って治療をすることができます。言葉というものは地域医療を行う上で重要なツールのひとつだと思います。もしも患者さんの新潟弁がわからない場合は、私を翻訳アプリとして使用してください。

高校卒業後、本学14期卒で開業医をしている父の影響をうけて新潟大学歯学部に入りました。「二世のサラブレッド」としての期待を裏切り続け、いつまでも「親の七光り」でなんとか歯科医師になることができました。10歳の時にバスケットボールと出会い、中学・高校・大学とバスケット部に所属していました。現在でも医療従事者で構成される社会人チームに所属させて頂き、年2回の市民戦にでております（コロナ渦でここ数年は大会自体も中止となっておりますが…）。バスケット

通じて多くの人との繋がりを実感することができます。今年で34歳となり体力的に厳しいところではありますが、怪我に注意しながらもう少し現役プレイヤーでいたいと思います。

大学卒業後は新潟大学医歯学総合病院にて臨床研修を行った後、現在も所属している歯周診断・再建学分野の門戸をたたきました。大学院では、歯周病と全身疾患の関連メカニズムについての研究を行い、博士（歯学）を取得すると共に、臨床

においては歯周病認定医を取得することができました。現在は多部田教授のもと臨床・研究・教育の3本柱で仕事をさせていただいております。教員となり仕事が大変と思うこともありますが、家族（妻と子供2人）の支えによりなんとか頑張ることができています。最後に、新潟大学歯学部および歯周診断・再建学分野、病院歯周病科の発展に少しでも貢献できるよう日々邁進していく所存です。今後ともよろしくお願い致します。

